

1. 本園の教育目標

人間の基礎が培われるかけがえのない幼児期に、整ったよりよい保育環境の中で、豊かで多様な経験を積み、周囲とのかかわりを持ちながら、心身のバランスの取れた子どもたちの育成を目指すという教育理念に基づき、以下の教育目標を掲げるものとする。

(1) すこやかで、たくましい心身を養う。
 (2) ゆたかな表現力と、創造力を育てる。
 (3) 考える力、考えるよろこびを培う。
 (4) お友達とかかわって遊ぶよろこびを育てる。
 (5) 豊かで多様な経験をすることによって、個性を伸ばし、個々の可能性を見いだす。
 (6) 子どもたちにとって、よりよい保育環境を整備する。

2. 重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を根幹に置き、園の教育理念・教育目標に基づいて、各保育者が教職員間の共通理解をはかる。また保育者自身の保育を見つめ直し、教育の質の向上に努める。さらには、保育内容の改善に主体的に取り組み、本園が担う幼児教育の役割について考えることなどを重点項目とする。

3. 評価項目の設定・取り組み状況

評価項目	有効性の指標	計画の方法、手段	取り組み状況
1 幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標にしたがい、保育カリキュラムを編成する	年間指導計画	年間保育カリキュラムの作成	幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標をふまえた年間保育カリキュラムを作成している。さらに学年会議で詳細な週間指導計画をたてている。
	週間指導計画	週間指導計画の作成	
	学年会議	議事録に記入	
	職員会議	議事録に記入	
2 教職員間での意見交換を充実させる	学年会議	議事録に記入	週1回以上の学年会議、毎月の職員全体会議に加え、各行事の反省会を実施するなど意思伝達の機会を多く設けている。
	職員会議	議事録に記入	
	行事記録/反省表	行事記録/反省表の作成	
3 教職員間で園の教育理念・教育目標についての共通理解を図る	学年会議	議事録に記入	園の教育理念・教育目標を全職員で再確認し、年一回の内部監査を実施することで各自の理解度を図るものとしている。
	職員会議	議事録に記入	
	内部監査の是正率	内部監査実施報告書に記入	
	行事記録/反省表	行事記録/反省表に記入	
4 日々の保育を振り返り、各自の保育を見直す	保育指導の検査	主活動サービス検査シートに記入	主活動サービス検査シートに加え、指導計画通りにできているか、また改善点はないかを日々自己評価し、次の保育に活かせるようにしている。
	週間指導計画の実施結果の不適合件数	週間指導計画の実施結果の作成	
5 園児の個性を読み取り、適宜、個別の保育指導計画を考える	教育目標設定/実施の達成率	品質目標設定/実施報告書に記入	個々に応じた園児の発達や興味を伸ばすことで、子どもの成長を援助できるようにしている。また、個々の性格をきめ細かく知ることによって新たな発見を園児と共に共感できるようにしている。
	幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)	幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)に記入	
	幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)	幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)に記入	
6 教職員の質の向上のために、園内外での研修実施・参加を充実させる	職員研修の実施状況	職員研修計画/報告書に記入	各教科の園内研修に加えて園外研修にもすすんで参加し、各研修資料を職員全員で精査することで各々の質の向上をはかる。

7	教育環境の整備をはかる	是正処置の効果	是正処置報告書の作成	預かり保育使用保育室の見直しや担当保育者数を増やす等の工夫をして、預かり園児数の増大や時間延長に対応する。また学年毎に預かる時間や異年齢交流を考えた預かり方を実践している。さらに、体操・水泳・英語などの特別指導科目と課外教室の充実をはかる。
		正課特別指導記録簿	正課特別指導記録簿に記入	
		アウトソースへの指示件数	アウトソース指示票の作成	
		課外教室活動記録簿	課外教室活動記録簿に記入	
8	園児の成長を援助するためにも、園と家庭との連携をはかり、細かな情報でも共有できるようにする	保護者アンケートの結果	保護者アンケートの実施	保育者は保護者との連絡を密に取り、園児に関する細かな情報の提供、取得をする。その結果を園児の成長に繋げていくように講じる。
		リレーションシップ記録表	リレーションシップ記録表の作成	
9	園舎等の施設・設備について安全点検をし、幅広い資料を取得して安全な保育環境を維持する	予防処置の件数	予防処置報告書の作成	保育作業マニュアルに基づき、施設・設備の安全点検をし、教育サービスにおいても全国の保育施設で起こった事例を基に安全かつ安心感のあるサービスを提供するように心がける。

4. 評価項目の結果

評価項目		有効性の指標	目標値又は不適合件数	実績値	評価結果(考察、所見)	改善処置の要否
1	幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標にしたがい、保育カリキュラムを編成する	年間指導計画			年間保育カリキュラムに基づき、週間指導計画が作成でき、各会議で決められた内容が保育現場で活用することができた。	要・ <input type="radio"/> 否
		週間指導計画				
		学年会議				
		職員会議				
2	教職員間での意見交換を充実させる	学年会議			学年会議、職員会議や各行事の反省会が保育全般に浸透できた。	要・ <input type="radio"/> 否
		職員会議				
		行事記録/反省表				
3	教職員間で園の教育理念・教育目標についての共通理解を図る	学年会議			内部監査での不手際はすぐに是正され、行事では不適合はなかった。	要・ <input type="radio"/> 否
		職員会議				
		内部監査の是正率 行事記録/反省表	是正率90%以上 3件以下	100% 0件		
4	日々の保育を振り返り、各自の保育を見直す	保育指導の検査	20件以下	0件	主活動サービス検査シートでは0件であり、週間指導計画の実施結果で1件の不適合は全て次の週に実施できたことで保育に支障はなかった。	要・ <input type="radio"/> 否
		週間指導計画の実施結果の不適合件数	10件以下	1件		
5	園児の個性を読み取り、適宜、個別の保育指導計画を考える	教育目標設定/実施の達成率	達成率85%以上	96.8%	園児個々の発達や興味を伸ばせている結果となっており、達成率は90%を超える高いものとなった。	要・ <input type="radio"/> 否
		幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)				
		幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)				

6	教職員の質の向上のために、園内外での研修実施・参加を充実させる	職員研修の実施状況	40回以上	52回	目標値を大幅にクリアでき、多彩な研修を受講することで効果的に保育現場で活用できた。このことにより各自のレベルアップに多いに寄与することができた。	要・ <input type="radio"/> 否
7	教育環境の整備をはかる	是正処置の効果	効果率90%以上	100%	預かり保育に関する内容は全て対応できた。特別指導科目と課外教室での不適合はなかった。アウトソースへの指示の内2件は給食業者への指示ではあったが、園児に直接影響する食事内容のものではなかった。	要・ <input type="radio"/> 否
		正課特別指導記録簿				
		アウトソースへの指示件数	5件以下	2件		
		課外教室活動記録簿				
8	園児の成長を援助するためにも、園と家庭との連携をはかり、細かな情報でも共有できるようにする	保護者アンケートの結果			リレーションシップ記録表を参考にし、保護者との関係づくりをすることができた。その結果が、園児の成長の援助に繋げることができたと思われる。 ※年度末に新型コロナウイルス感染予防に係わる臨時休園があったため保護者アンケートは未実施。	要・ <input type="radio"/> 否
		リレーションシップ記録表				
9	園舎等の施設・設備について安全点検をし、幅広い資料を取得して安全な保育環境を維持する	予防処置の件数	3件以上	3件	予防処置をすることで、園児に安全な保育環境を整備することができた。ただし、目標件数をクリアできたが、更に予防処置に値する案件が多数提出されるように心がける。	要・ <input type="radio"/> 否

5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全職員が自己評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した保育実践ができるように努力を積み重ねてほしい。

また、職員間でのコミュニケーション能力が向上し、意思伝達がスムーズにできるようになってきている。同時に保護者の方との情報共有もできてきている。

施設・設備面では環境整備に力を入れており、保護者の方々に安心してお子様を預けていただける教育サービスにおいての安全面を念頭に、保育環境を整備している。

その結果として、現段階としての改善処置の必要性は見られず、概ね目標を達成できたと思われる。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員間での協力・連携	学年に関わりなく、他の学年のカリキュラム内容も把握し、更なる協力体制を構築できるようにする。またフリー教員、保育補助教員の効率的な配置をすることでより高い保育を目指すようにしていくことを考えていく。
特別支援教育	引き続き、医療・福祉の関係機関との連携や、保育カウンセラーの助言による個別指導計画、支援計画の作成をし、日々の保育に活用できるようにする。
預かり保育	無償化制度に付随する預かり保育制度が導入され、預かり保育の実施方法の見直しに加え、管理方法が複雑になり、より精度の高い園児管理が課題となっている。また担当教員の配置方法などの変更も視野に入れたな改善を講じるようにする。

7. 学校関係者の評価

評 価 項 目		適 否
1	自己評価の結果内容が適切かどうか	○適・否
2	自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか	○適・否
3	重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目が適切かどうか	○適・否
4	学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか	○適・否
総 評		
<p>教職員の方々子ども達の喜びを糧にして日々保育に専念しているのが良く分かります。幼稚園の教育方針も子ども達を中心に考えられた園づくりを目指されています。</p> <p>また、日々の保育結果を自己評価する体制があることから日々の保育に対するきめ細かな対応姿勢が良くわかります。</p> <p>さらに、先生方の保育に対する意欲や技術を伸ばすための様々な研修制度の充実、教育資料・教育材料の提供の他、職員間のコミュニケーションづくりにも工夫が見られ、その結果が保育に活かされていると受け取れます。</p> <p>音楽関係・体育関係・英語関係の指導も、外部の講師の先生達と一体となって行われ、より高いレベルの保育を目指されているのが伺われます。加えて、先生方にとって働きやすい職場環境を構築されていることは、充実した保育環境に繋がっているものと察します。</p> <p>特別支教育や預かり保育についても、継続して充実した内容になるよう推し進めて下さい。</p> <p>今後も現在の保育水準を維持し、かつ向上されることを望みます。</p>		

8. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。
